

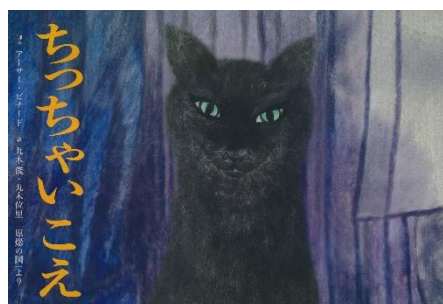
# 多摩永山中学校だより

編集・発行 校長 佐藤 信雄

<http://schit.net/tama/ihamanagavama/>

## ノーベル平和賞と『ちっちゃいこえ』

校長 佐藤 信雄



今年のノーベル平和賞は、日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）が受賞しました。現地時間の12月10日午後1時、代表委員の田中熙巳さん（92）、田中重光さん（84）、箕牧智之さん（82）の3人が登壇してメダルや賞状を受け取られました。日本被団協は、被爆者の立場から核兵器の廃絶を長年一貫して訴え続けてこられた団体であり、その継続した取組みが平和に寄与してきたとして受賞の運びとなりました。生徒の皆さんも、ニュースとして記憶に新しいことと思います。「ノーモア ヒロシマ！ ノーモア ナガサキ！ ノーモア ヒバクシャ！」を成果に向けて訴え続け来られた方々の取組みに、静かに賛同できる一人でありたいと思っています。

原爆による被害を受けたのは、人間だけではなく、犬も猫も鳥も馬も、あらゆる生き物が熱線で焼かれ、爆風で叩きつけられ、命を落としました。その日、わずかに生き残った人間も動物たちも、いったい何が起きたのかが分からなかったことでしょう。生き残れたことを喜ぶことすらできなかったことでしょう。

原爆の被害は、その日だけでは終わることなく、延々と続きました。目に見えない放射能が体の細胞を侵し、正常な生命活動をさせなくしていきます。被爆後何年もたってから放射能障害を発症して亡くなる人も後を絶ちませんでした。それは動物たちも同様だったのです。ちっちゃなちっちゃな体の動物たちの、その体のちっちゃなちっちゃな細胞たちが、生きる声をあげられなくなり、やがて息を引き取る…。核兵器は、炸裂した瞬間から、人間も動物も区別なく、殺し続けていく兵器なのです。亡くなられた方も、かろうじて生き残った方も、どれほどつらかったか。

この哀切なできごとを、詩人のアーサー・ビナードさん（米国）が短い物語にしました。そしてその物語に、丸木俊さんと丸木位里さんの大作「原爆の図」から絵を取り、一つの紙芝居が生まれました。『ちっちゃいこえ』という物語です。ネコが静かに静かに物語を紡ぐ、哀しい話です。それだけではなく、この物語には、深い怒りと決意が内在されています。命を根絶やしにしようとする意図への怒りと、再びこのような惨事を許すまい、起こさせるまいという決意を。この紙芝居を、生徒の皆さんに上演するには、今の私ではまだ力不足です。力を蓄え、演技を磨き、早く生徒の皆さんに観ていただきたいと強く思います。

日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことを受けて、私の心に浮かんできたのは、この紙芝居の存在と、生徒の皆さんに向けて上演する力を1日も早くつけなくては、ということでした。

世界に、世界中に、世界中の人々に愛と平和と自由がありますように。Love & Peace & Freedom!

### たまなが生の大活躍！

敬称略

#### 〇一日税務署長 in 日野税務署

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

萱原 藍子（3年）

綿谷 明日陽（3年）



萱原さんと綿谷さんのお二人は、受賞の記念と、納税道義の一層の向上のPRのため、12月9日（月）に、日野税務署にて一日税務署長に就任され、イベントに参加されました。

当日は、まず税務署長室にて税務署長さんから一日税務署長の辞令を交付され、ついで幹部の皆さんと名刺交換をしました。その後、署内を巡回見学し、税務署の中で職員の方々がいろいろな職務を果たされているところを見学しました。個人情報や金銭に関わる職務が多いため、職員の皆さんもたいへん集中して職務にあたっておられました。その後会議室にて、一日税務署長として職員に訓示をするという形で、税に関する作文をそれぞれ朗読しました。当日は多摩テレビも取材に来ており、お二人と税務署長さん方との座談会を撮影され、それぞれにインタビューもしてくれました。お二人とも、税金について真摯に考え、その望ましい在り方について提言をしてくれました。大変立派な内容で、署長さんはじめ職員の皆さんも心から喜んでくださいました。お二人とも頑張りました！

次のページにお二人の作品を掲載いたしますので、ご覧ください。あらためて税について考えさせられます。



署長さんと名刺交換 緊張しますね



作文を朗読し職員への訓示としました



イータクくんも入って記念写真をパチリ

## 『介護から学んだこと』

萱原 藍子

私は、この課題が出されたとき、税についての知識があまりなかったので調べてみました。まず税金とは、国に納める「国税」と県や市に納める「地方税」の2つにわかれています。「国税」には、所得税、法人税、消費税などがあり、地方税には住民税、事業税、固定資産税があります。今回、私は一番身近な税である消費税について知識を深めてみました。消費税は、買い物に行ったとき、日本では商品の10%の金額を国に納めることです。納めたお金は、年金や医療、介護などの社会保障に使われています。

私は「年金」や「医療」、「介護」と聞いて、自分の祖父のことを思い浮かべました。祖父は「進行性核上性麻痺」という持病を抱えています。歩行障害などが徐々に進行して、寝たきりになってしまう進行性の病気です。祖父の病も徐々に進行し、今年に入り、歩行が出来なくなり、介護が必要な状態になりました。要介護認定区分の中で、最も介護が必要とされる要介護5と認定されました。祖父の家に行くと、家の中の壁中に手すりがつき、段差にはスロープがついていました。祖父が寝るベッドも電動ベッドに変わっていました。歩けなくなった祖父が使う車椅子もありました。これはすべて介護保険サービスによるものだと知りました。毎週、看護師さんが家に来て、ケアをしてくれる訪問介護、作業療法士さんが家でリハビリをしてくれる訪問リハビリ、これも介護保険サービスを利用したものでした。この介護保険サービスですが、利用者負担はサービス費用の1割ということです。残りの9割は税金である社会保障で賄われています。これらのサービスをすべて自費で賄うとなると、経済力がある人しか介護サービスを受けることができなくなってしまいます。もしこの制度がなかったら、祖父の体調は悪化していたかもしれないし、家が破産していたかもしれません。そして、何より住み慣れた家で暮らすことはできなかったでしょう。

私は、税金は悪いもの、無くてもいいものと思っていました。しかし、介護保険サービスを知って、税は人を助けるものでもあるということを知りました。皆が平等に安心して医療や福祉を受けられる制度であってほしいと思います。祖父の笑顔が、ずっと続くように、私も、その笑顔をずっと支えられるように、税に関心をもち、社会に目を向けていきたいと考えています。

## 『税金と言うバトン』

綿谷 明日陽

税金は、人と人を繋ぐバトンである。そう感じたのは中学校1年生の時だ。

3歳年上の姉は、夏休みの課題として「中学生 税の作文」が出されていた。食卓では母と姉が税金の話をする。しかし、税金に関する知識が皆無だった私は二人の会話にはついていけず、歯痒い思いをした。だから、自分も税金について調べてみることにした。すると、小学校と中学校の間で1人当たり約850万円もの税金が使われていることが分かった。これまで教科書や授業料、学校の校舎などに税金が使われていることを知ってはいたが、こんなにも多くの税金に支えられていたとは知らなかった。その為、この事を知った時は本当に驚いた。それと同時に税金について興味を持ち、詳しく知りたいと思うようになった。

母に詳しく聞いてみると、また一つ驚きがあった。それは、税金には「児童扶養手当」というものがあることだ。「児童扶養手当」とは、「父子家庭や母子家庭、または父母に代わった養育している方など、ひとり親世帯の生活と児童の育成の支援を目的に支給される手当のことである。調べてみると、特に母子家庭が多く、学校で例えると1クラス40人のうち、以前は2人だったのが、今は約3人の児童が該当すると言える程、一人親家庭が増加していることがわかった。私の親戚も、母子家庭で「児童扶養手当」を受けているそうだ。そして、この制度のおかげで学校に行って授業を受けたり、美味しい給食を食べたりすることができていると聞いた。このことから、母子・父子家庭は「児童扶養手当」に大いに助けられていると分かり、税金はとても大切なものだを知ることができた。

私達の周りには気付かないだけで、母子・父子家庭で大変だと感じている方がたくさんいる。そして、そのような家庭を「児童扶養手当」という税金の制度が支えている。

私達は小学校や中学校で多様な税金に支えられている。だから、これまでの感謝の気持ちを含め、そのように私も税金を通して誰かの力になりたいと思う。3年後には私も税金を納められるようになる。その為、直接的ではないが、私が納める税金で、多くの人に幸せを届けていきたいと感じる。税金は、人と人を繋ぐ大きなバトンなのだから。



## ○「令和6年度全国中学生人権作文コンテスト」東京都大会

多摩市人権擁護委員賞 横田 希子(1年)

横田さんの作品は、他の受賞作品とともに、下記の日程と会場で、多摩市人権啓発パネル展「(仮称) 子どもからの平和・人権メッセージ」にて展示されます。おめでとうございます。

日時 令和7年2月下旬

場所 京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター AB館5階連絡ブリッジギャラリー

内容 「中学生人権作文コンテスト」入賞作品、小学生による「人権メッセージ」代表作品  
「人権の花」運動の活動報告  
多摩市子ども被爆地派遣報告作文などのパネル展示



## ○女子バレー部

多摩市中学校バレーボール大会第24回たまカップ 12月15日

第3位

優秀選手賞 山本 心優(2年) おめでとうございます。



## ○囲碁

第22回ジュニア囲碁パーク 12月27日 主催 日本棋院 於 東京武道館

チャンピオンクラス 優勝 山本 創樹(1年)

チャンピオンクラスは四段以上の方が競う、最もレベルの高いクラスです。おめでとうございます。



## 家庭科部+有志 農作業ボランティア in 小田良ベース 今回は『藁ボッチ』

12/7(土)、晴天に恵まれ、小田良BASEにて今年最後の農業体験ボランティアに参加しました。今回は藁ボッチ(冬の間に稲わらを保管するため、また民俗学的には依り代(よりしろ)、形代(かたしろ)の意味もあるそうです)を作成しました。刈り取った稲わらを、次の春からの農作業に使えるようにする大事な作業です。

生徒の皆さんは輪になって楽しく会話をしながら、藁ボッチのための藁を結わえていきます。そして男子は黙々と打ち込み、またできあがりつつある藁ボッチの形を整えるため剪定鋏をふるいました。朝のうちは冷たい空気でしたが、午後は陽が出てうらかな小春日和でした。そしてお日様に乾いた藁のにおいはとても温かなものでした。

最後に、田植えから脱穀までお手伝いして収穫されたお米を分けていただき、帰路につきました。引率から作業まで参加いただいた保護者の方、ありがとうございました。ご指導くださった白川様、ありがとうございました。

小田良BASEは将来的に公園となる予定ですが、それまでの間にボランティアが里山としての保全活動を行っています。田や畑など農地の持ち主の方々も、人手が足りず農地の保全に困難を感じとのこと。そこで、本校の家庭科部と有志は、ボランティアとして参加しています。



いただいたお米を手に、みんなで藁ボッチと一緒に記念写真をパチリ



和気あいあい



これが藁ボッチです



お米担当がパッケージしてくれました

## 感染症(インフルエンザ等)にご注意ください

年末は市内小・中学校でインフルエンザやコロナ様態の感染症による学級・学校閉鎖が続出しました。みなさま、どうぞご用心ください。「うがい」「手洗い」「適度な換気」「栄養と休養」を心掛けましょう。



## KPKAのわくわく紙芝居シアターin 図書館



童話をあたかく上演する赤上さん



語り口も笑顔も優しさにあふれます

12/2 (月)、今年最後の「KPKAのわくわく紙芝居シアター」が図書館にて開かれました。今回は12月ということで、謎のサンタクロースも登場しました。この日は、給食後は学活、掃除、下校という流れのため、紙芝居シアターへの参加が難しいタイミングでの上演でしたが、前回と同様にたくさんの生徒の皆さんが観に来てくださり、KPKAのメンバーの赤上さんも、顧問のレイチェルさんも、謎のサンタクロースもたいへんうれしく思いました。紙芝居に限らずですが、観客の方が大勢おいでですと、演者は本当に嬉しいものですね。

今回の出し物は、赤上さんが『みつごのこぶたのクリスマス』を、謎のサンタが『こねこのしろちゃん』をそれぞれ上演しました。『みつごの…』はクリスマスにふさわしい内容で、子どもの頃に読み聞かせをしてもらった「さんびきのこぶた」を思い出した生徒も多かったと思います。「こねこの…」は、サンタが生徒

の皆さんに「自分に疑いをもたなくていいんだよ」というメッセージを伝えたかったので上演したとのことでした。

KPKAの皆さんは平和のために「私たちは微力であっても無力ではない」を合言葉に取り組んでいらっしゃいます。この言葉とその行動に、改めて勇気を分けていただいた今回の紙芝居シアターでした。

世界中の人が幸せなクリスマスと新年を迎えられますように！



生徒と記念撮影のサンタさん！



このサンタはひげが黒いなー(笑)

## そうだ、図書館へ行こう！ 「愛されたい」「嫌われたくない」と強く思う人へ

### 「多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。」

著 jam 監修 名越康文 sanctuary books  
図書館番号 159 ジ

今回ご紹介するのは、「嫌な人」や「理不尽な人」を気にして辛かったり、「人の幸せが気になって仕方がない」人や、よく「周りの目が気になる」ことが多くて、時には「自分を責めてしまう」人にこそ読んでいただきたい本です。また、「愛されたい」「嫌われたくない」と強く思うあまり、辛さを感じている人におすすめの本です。

この本は四コマ漫画と短い文章でひとつのまとまりができています。とても読みやすいものです。しかし、内容はなかなか深く、味わい深いものがあります。また四コマ漫画の登場キャラクターは人間ではなく、ネコです。ここの絶妙な設定です。人間でない分、誰でもなく誰でもあるという普遍性が出てきますし、同時に愛嬌とユーモアがにじむため、深刻さを和らげてくれるのです。

図書館には続編もあります。寒い冬の心のビタミン補給に、この本を手にとって見てはいかかでしょうか？ 素晴らしい人生のヒントをいただけたと思います。

ところで、新年の学校図書館では図書委員会によるSDGs活動を展開しています。その一環として、「10 人や国の不平等をなくそう」に関連する活動として「差別に関する本」の展示を、「16 平和と公正をすべての人に」に関連する活動として「平和に貢献した人の本」の展示を行っています。どれもみな、読みがよいのある書籍ばかりです。

生徒の皆さんの来館を、司書の宮居先生も、図書委員会一同もお待ちしています。

【編集後記】 今年は巳年、へびの干支です。へびは脱皮を繰返し成長するところから「再生」「不死」の象徴とされ、知性を司るとも言われます。学校だよりもこれにあやかって、これからもレベルアップをして参ります。

なお、掲載しております書影等については、出版者様より使用許諾をいただいております。心から感謝申し上げます。



「続編」も開架されています

